

25	平成19～21年度	学校名 高島市立高島小学校 高島市立高島中学校
----	-----------	----------------------------

平成21年度教育研究開発実施報告書（要約）

1 研究開発課題

「自己実現を図り、よりよく生きようとする力を育成するため「未来（ゆめ）の時間」を設置し、地域や児童生徒の実態を踏まえ、体験的な学習を核にした義務教育9年間の小中一貫教育の教育課程についての研究開発」

『つながり』をキーワードにして、

「学校がつながる」「学習がつながる」「人がつながる」「地域がつながる」
そして、「未来につながる」学習を構築していく。

〔研究開発課題設定の理由〕

本校区には2保育園、1小学校、1中学校がある。このように長い在園・在学期間をほぼ同じ顔ぶれで過ごすため、安定した人間関係の中で素朴で明るく仲良く関わり、真面目に一生懸命取り組む子どもが多い。しかし、偏った見方で人間関係がこじれると、その関係は固定化されてしまうことがある。このような中で無関心な言動がみられ、自己表現力が乏しくうまく自分の思いを相手に伝えられなかったり、自分本位な判断をしたりして、よりよい人間関係を築けない子どもも増えてきている。また、本学区は農山村部に位置しているが、近年京都・大阪のベッドタウンとして新興住宅地が造られた。そして、核家族や両親共働きの家庭も多く、自宅に帰っても子どもだけになり、校区が広範囲のため群れて遊ぶ姿が見られなくなってきた。保護者の考え方も多様化し、保護者同士のつながりも希薄な一面がみられる。このような影響を受け、子どもたちは基本的な生活習慣がしっかりと身につけていなかったり、自己中心的で思いやりに欠けたりする等課題も多くみられる。さらに、学習面においても、受け身的で進んで学ぼうとする意欲が低い子どももみられ、学年が上がるにつれて学力の二極化が顕著になっている。ここ数年、隣接した立地条件を生かし、小中の子どもや教職員の交流を進めてきたが、中学校進学に際して不安や戸惑いを感じている子どもも少なくない状況がある。このような課題を解決するため、小中の連続性を高め、9年間を見通した教育課程を研究し開発していく。その中で、自分の考えをしっかりともち、正しい判断をし、主体的に人やものに関わりながら、未来に向かって逞しく生きていこうとする子どもの育成をめざして本主題を設定した。

2 研究の概要

義務教育9年間を「ステージ1（小1～小4）・ステージ2（小5～中1）・ステージ3（中2～中3）」に分け、学習内容に系統性をもたせながら、発達段階および小中のギャップ解消を考慮した教育課程を研究開発する。

具体的には、ステージ1で学習・生活における基礎・基本を、ステージ2では発展的な学習、ステージ3では自分の将来、地域の未来を考える生き方学習を行う。

「未来の時間」の主な学習として、①学びの基礎②人間関係③地域・生き方を設定し、児童生徒の発達段階に応じた学習内容と方法の実践研究・教材開発を行う。

3 研究の目的と仮説等

(1) 研究の仮説等

仮説1 「未来の時間」の新設によるカリキュラム開発

「未来の時間」〔(学びの基礎)、(人間関係)、(地域学習)〕の3つの分野を新設し、児童生徒の発達段階を考慮し、9年間を見通したカリキュラムを作成し実践すれば、児童生徒の「自己実現を図り、よりよく生きようとする力」を育成することができるであろう。

仮説2 ステージ制と小中の交流の活発化

義務教育9年間を「ステージ1(小1～小4)・ステージ2(小5～中1)・ステージ3(中2～中3)」に分け、各ステージでの学習内容や発達段階を考慮した教育課程を編成し、隣接した立地条件を生かして、児童・生徒・教職員が積極的に交流することにより、小中の連続性が高まり、児童生徒の育ちがより確かなものになっていくであろう。

(2) 教育課程の特例

新領域「未来の時間」の実施

- 「学びの基礎」 B(ベーシック)タイム
・・・学び・生きることの基礎・基本
- 「人間関係」 F(フレンドリー)タイム
・・・学年、学級の仲間づくり
異学年交流を含めた集団活動
- 「地域・生き方」 V(ビレッジ)タイム
・・・地域の特性からの学び
人々の生き方に学ぶ

4 研究内容

(1) 教育課程の内容

①児童生徒の生活実態の把握

課題を共有化するとともに、小中一貫教育の意義について共通理解を図る。

- ・中学入学時の生徒の意識を把握するため、中学1年生に意識調査アンケートを実施。
- ・小学校6年生に学校への期待と不安等についての意識調査アンケートを実施。
- ・小中一貫教育の取組に対する全校児童生徒及び保護者による意識調査アンケートを実施。(取組の評価へとつなげる。)
- ・家庭生活での姿を把握するため、小学3年～中学3年の児童生徒の生活実態アンケートを実施。(生活改善、自己向上プロジェクトに生かす)

②新領域「未来の時間」の構想

新領域「未来の時間」を、B(ベーシック)タイム〔学びの基礎〕と、F(フレンドリー)タイム〔人間関係〕、V(ビレッジ)タイム〔地域学習〕の3つの内容とし、児童生徒の発達段階に応じた指導内容と指導法の実践研究・教材開発を行う。それぞれの領域のめざす子ども像や主な内容として次のことがあげられる。

B(ベーシック)タイム〔学びの基礎〕

人として生きていく上で、しっかりと身につけておきたい学習や生活における基礎基本

の力を培う時間としていく。具体的には、漢字検定等を窓口にして自主学習の仕方を学んだり、学校生活や家庭生活を見直していくために、学年の発達段階に応じて、学びの基礎力を高めたり、自己向上プロジェクトや表現力の基礎を学んでいくカリキュラムを構成したりしていく。

《めざす子ども像》

- ・ 生きること、学ぶことの基礎の定着を図り、
自信をもち意欲的に取り組むことができる子ども

F (フレンドリー) タイム [人間関係]

学級を基盤とした集団、仲間づくりをねらいとしてカリキュラムを工夫し、よりよい人間関係のあり方、道徳的観念、社会規範等を学んでいく。

また、異学年との関わり（保小中）を通して、優しい思いやりの心や、よりよいリーダーシップやメンバーシップを育成していく。

《めざす子ども像》

- ・ めあてをもって、生き生きと集団の中で力を発揮する子ども
- ・ 人間関係を豊かにすることにより自分の思いをもち、自発的に表現ができる子ども

V (ビレッジ) タイム [地域、生き方]

人や地域との関わりを通して、郷土を知り、愛し、誇りをもち、地域を大切にしていこうとする気持ちを育てていく。さらに、地域学習を進めながら、職業観、勤労観を育てていく。

また、近江聖人「中江藤樹の教え」を学年の発達段階に応じて学び、夢や志をもった生き方を追究する。

《めざす子ども像》

- ・ 人や地域とのつながりを通して、地域や自分について語れる子ども

③ステージ制（6・3制から4・3・2制へ）

義務教育9年間を「ステージ1（小1～小4）・ステージ2（小5～中1）・ステージ3（中2～中3）」に分け、学習内容に系統性をもたせながら、発達段階および小中のギャップ解消を考慮した教育課程を研究し開発する。

○プレステージ

- ・ 保育所と小学校との連携を深め、小学校へのなめらかな移行ができるように、基本的な生活習慣の定着、集団行動の規律等、人間形成の基盤の育成に努める。

○ステージ1（小学1～4年）

- ・ 保育所との連携を深め、基本的な生活習慣の定着、社会規範等の育成に努める。
- ・ 学習、生活における基礎基本の定着を図る教育課程の工夫を行う。

○ステージ2（小学5～中学1年）

- ・ 小5・6年において、教科担任制を一部導入し、専門分野を生かした魅力ある授業を創造することで、中学校での教科担任制にスムーズに移行させる。
- ・ 小中の連続性を考え、小学5・6年の児童の中学校生徒との交流を積極的に進め、中1ギャップの解消を図る。また、異学年グループの交流活動を通して中学

1年のリーダーシップを高め、自主性及びよりよいリーダー性を育てる。

○ステージ3（中学2・3年）

- ・「未来の時間」の地域学習の総まとめとして、地域の将来を考えられる生徒の育成を図る。
- ・ボランティア活動や職場体験等のさまざまな体験を通して、自分の良さに気づき、学ぶことや働くことの尊さを感じ、自分の将来を考えていく。
- ・地域の高校との連携を図りながら、校種間のなめらかな移行ができるよう、進路指導の充実に努める。

④ステージ2において中1ギャップ解消に向けた取り組みを行う。

《一部教科担任制授業及び小中教員による乗り入れ授業》

- 5・6年の担任を中心に、より専門分野を生かした授業システムを確立し、魅力ある授業を創造するとともに、中学校での教科担任制に移行させる。
- 中学校の教員が、小学校高学年の理科の授業を担当したり、専門性を生かして実技教科（図工、音楽）やクラブ活動の時間にTT体制で小学校の授業をサポートしたりする。
- 小学校の教員が、中学1年の数学の授業を担当したり、中学校の特別支援に関わる生徒の支援を行う。

《ステージ2による異年齢交流活動》

- 縦割り班による異年齢交流活動を実施することにより、自主性、リーダー性を育てる。
- 体育祭や文化祭、部活体験等で交流を図り、互いのよさや頑張りを認め合う。

《小学6年による定期考査の導入》

- 小学6年2学期より国語、社会、算数、理科の4教科において定期考査を行い、考査に向けた家庭学習の進め方等について学んでいく。

⑤異年齢交流活動を推進し、主体性や協調性を育てる。

- 小中の児童生徒の交流活動（運動会・体育祭・文化祭・マラソン大会）を通して、互いのよさや頑張りを認め合う。
- 5月、11月を小中交流月間として、ステージ1、ステージ2において異年齢の関わりを意図的に設定し、縦のつながりの中で幅広い人間関係力の育成を図る。

⑥生徒指導、特別支援教育のつながり

- ・不登校及び不登校傾向の児童生徒に関わって、小中の関係職員や教育研究所の職員が定期的に話し合いの場を設定し、現状報告や今後の対応について協議していく。
- ・小中の生徒指導連絡会を開催し、定期的に情報交換等を行い連携をとっていく。（個人カルテの活用）

⑦高島ネットワークの取り組み

- 授業・保育公開
 - ・それぞれの校園の校内研究会等の参観
- 高島の子どもを語る会
 - ・分科会形式で、日頃感じていることを話し合う。
保育所と小学校低学年、小学校高学年と中学校、中学校と高校のつながりを。
- 教育講演会（職員研修会）の実施
- 保育士、教職員による保小中の交流体験（授業体験、保育体験）

⑧関係機関との連携

- カリキュラム（案）の作成にあたっては、県教育委員会、県総合教育センター、市教育委員会の助言と支援のもとに進める。

(2) 研究の経過

	実 施 内 容 等
第一年次	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育によるめざす子ども像と研究主題の設定 ・児童生徒の日常生活、生活習慣の実態把握アンケートの実施 ・中1ギャップに関わる小学6年と中学1年による実態意識アンケートの実施と結果分析 ・「未来の時間」の構想検討 地域学習・児童活動・基礎学習領域の目標の明確化 ・小中一貫に向けた研究組織づくり ・「未来の時間」の9年間を見通したカリキュラム（案）の作成 ・コミュニケーション能力のスキル学習の職員研修 ・1年次研究の評価とまとめ
第二年次	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の評価及び成果と課題についての検証 ・研究の方向、研究内容、研究方法の修正 ・児童生徒、保護者への実態・意識調査アンケートの実施 ・「未来の時間」の9年間を見通したカリキュラム（案）の見直しと実践 ・2年次中間発表会の実施 ・2年次研究の評価とまとめと3年次計画作成
第三年次	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次の評価及び成果と課題についての検証 ・研究の方向、研究内容、研究方法の修正 ・児童生徒、保護者への実態意識調査アンケートの実施 ・「未来の時間」の9年間を見通したカリキュラム（案）の見直しと実践 ・ステージによるカリキュラム開発とステージ独自の取組 ・「未来の時間」の9年間を見通したカリキュラムの完成 ・研究成果報告会の実施 ・3年次研究の評価とまとめ（成果と課題）

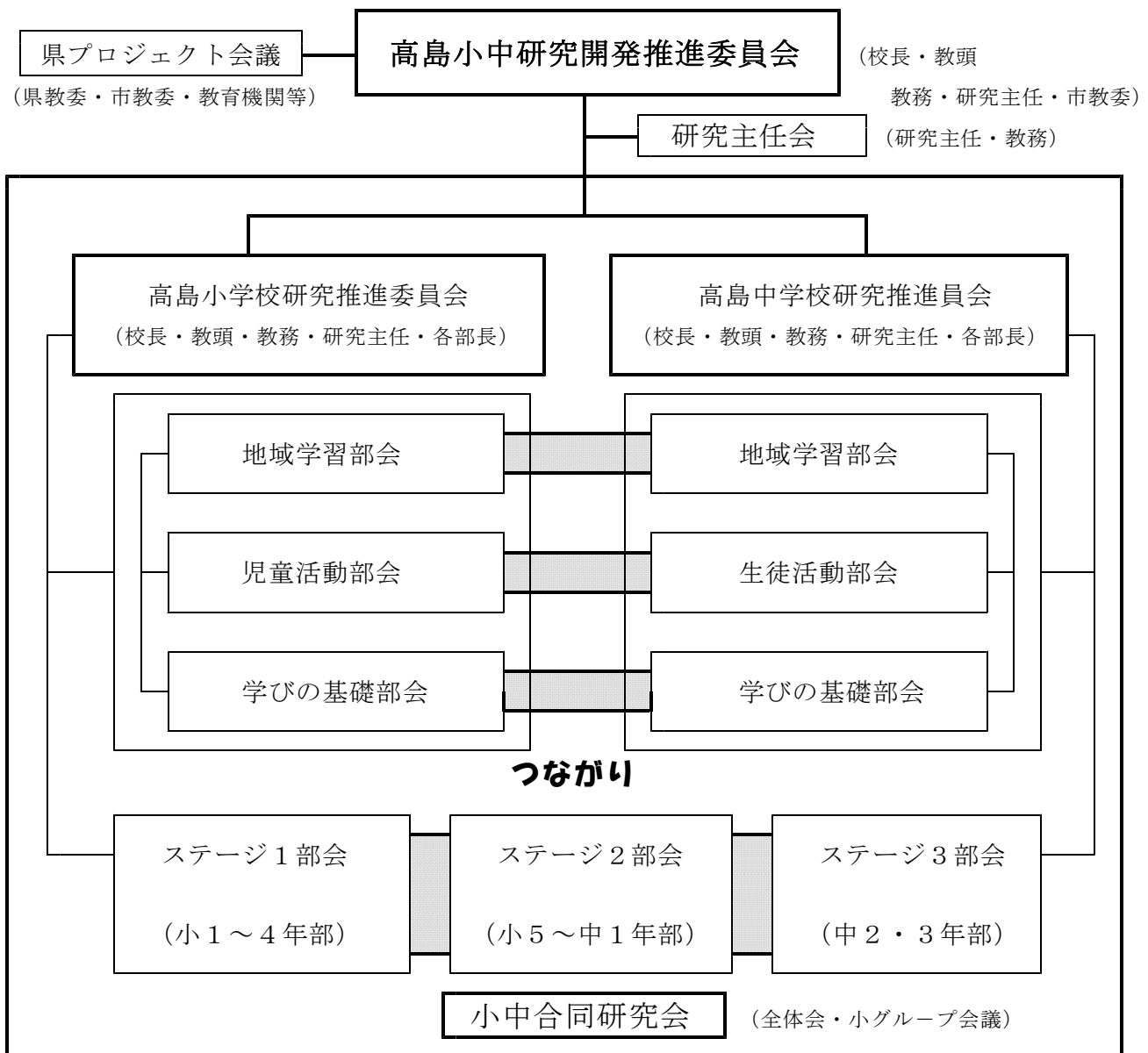
(3) 評価に関する取組

	評 価 方 法 等						
第一年次	<p>○高島小中研究開発推進委員会の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校での研究開発の企画・実践・評価を行う <p>【構成メンバー】 高島小中学校関係者 高島市教育委員会関係者 研究アドバイザー（大学教授 等）</p> <p>○評価の実施（主に質問紙法）</p> <p>《児童生徒アンケート》</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">時期</td> <td style="width: 45%; text-align: center;">6 月</td> <td style="width: 45%; text-align: center;">3 月</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">対象</td> <td style="text-align: center;">中学1年</td> <td style="text-align: center;">小学6年</td> </tr> </table>	時期	6 月	3 月	対象	中学1年	小学6年
時期	6 月	3 月					
対象	中学1年	小学6年					

	<table border="1"> <tr> <td>内容</td> <td>中学校生活における意識調査</td> <td>中学校入学前の意識調査</td> </tr> <tr> <td colspan="3">《学校評価アンケート》</td> </tr> <tr> <td>時期</td> <td colspan="2">1 2 月</td> </tr> <tr> <td>対象</td> <td colspan="2">保護者・学校評議員・教職員</td> </tr> <tr> <td>内容</td> <td colspan="2">基本的な生活習慣、人間関係、社会規範、学校行事、授業等</td> </tr> </table> <p>○研究成果中間報告会の実施（1月） ○各種評価をもとにした改善計画の作成（3月）</p>	内容	中学校生活における意識調査	中学校入学前の意識調査	《学校評価アンケート》			時期	1 2 月		対象	保護者・学校評議員・教職員		内容	基本的な生活習慣、人間関係、社会規範、学校行事、授業等													
内容	中学校生活における意識調査	中学校入学前の意識調査																										
《学校評価アンケート》																												
時期	1 2 月																											
対象	保護者・学校評議員・教職員																											
内容	基本的な生活習慣、人間関係、社会規範、学校行事、授業等																											
第二年次	<p>○高島小中研究開発推進委員会の企画・実践・評価 ○学校評価及び意識調査アンケートの実施 《児童生徒アンケート》</p> <table border="1"> <tr> <td>時期</td> <td>6 月</td> <td>3 月</td> </tr> <tr> <td>対象</td> <td>中学 1 年</td> <td>小学 6 年</td> </tr> <tr> <td>内容</td> <td>中学校生活における意識調査</td> <td>中学校入学前の意識調査</td> </tr> </table> <p>《学校評価アンケート》</p> <table border="1"> <tr> <td>時期</td> <td>1 1 月</td> <td>1 1 月</td> </tr> <tr> <td>対象</td> <td>小学 3 年～中学 3 年</td> <td>小学 1 年～中学 3 年</td> </tr> <tr> <td>内容</td> <td>生活実態調査</td> <td>各ステージの取組 異年齢交流活動について</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>時期</td> <td colspan="2">1 2 月</td> </tr> <tr> <td>対象</td> <td colspan="2">保護者・学校評議員・教職員</td> </tr> <tr> <td>内容</td> <td colspan="2">基本的な生活習慣、人間関係、社会規範、学校行事、授業等</td> </tr> </table> <p>○学習発表会 ○各種評価をもとにした改善計画の作成（3月）</p>	時期	6 月	3 月	対象	中学 1 年	小学 6 年	内容	中学校生活における意識調査	中学校入学前の意識調査	時期	1 1 月	1 1 月	対象	小学 3 年～中学 3 年	小学 1 年～中学 3 年	内容	生活実態調査	各ステージの取組 異年齢交流活動について	時期	1 2 月		対象	保護者・学校評議員・教職員		内容	基本的な生活習慣、人間関係、社会規範、学校行事、授業等	
時期	6 月	3 月																										
対象	中学 1 年	小学 6 年																										
内容	中学校生活における意識調査	中学校入学前の意識調査																										
時期	1 1 月	1 1 月																										
対象	小学 3 年～中学 3 年	小学 1 年～中学 3 年																										
内容	生活実態調査	各ステージの取組 異年齢交流活動について																										
時期	1 2 月																											
対象	保護者・学校評議員・教職員																											
内容	基本的な生活習慣、人間関係、社会規範、学校行事、授業等																											
第三年次	<p>○高島小中研究開発推進委員会の企画・実践・評価 ○学校評価及び意識調査アンケートの実施 《児童生徒アンケート》</p> <table border="1"> <tr> <td>時期</td> <td>6 月</td> <td>3 月</td> </tr> <tr> <td>対象</td> <td>中学 1 年</td> <td>小学 6 年</td> </tr> <tr> <td>内容</td> <td>中学生生活における意識調査</td> <td>中学入学前の意識調査</td> </tr> </table> <p>《学校評価アンケート》</p> <table border="1"> <tr> <td>時期</td> <td>1 2 月</td> <td>1 2 月</td> </tr> <tr> <td>対象</td> <td>小学 3 年～中学 3 年</td> <td>小学 1 年～中学 3 年</td> </tr> <tr> <td>内容</td> <td>生活実態調査</td> <td>各ステージの取り組み 異年齢交流活動について</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>時期</td> <td colspan="2">2 月</td> </tr> <tr> <td>対象</td> <td colspan="2">保護者・学校評議員・教職員</td> </tr> <tr> <td>内容</td> <td colspan="2">基本的な生活習慣、人間関係、社会規範、学校行事、授業等</td> </tr> </table> <p>○研究成果報告会の実施（10月）と事業評価（2月）</p>	時期	6 月	3 月	対象	中学 1 年	小学 6 年	内容	中学生生活における意識調査	中学入学前の意識調査	時期	1 2 月	1 2 月	対象	小学 3 年～中学 3 年	小学 1 年～中学 3 年	内容	生活実態調査	各ステージの取り組み 異年齢交流活動について	時期	2 月		対象	保護者・学校評議員・教職員		内容	基本的な生活習慣、人間関係、社会規範、学校行事、授業等	
時期	6 月	3 月																										
対象	中学 1 年	小学 6 年																										
内容	中学生生活における意識調査	中学入学前の意識調査																										
時期	1 2 月	1 2 月																										
対象	小学 3 年～中学 3 年	小学 1 年～中学 3 年																										
内容	生活実態調査	各ステージの取り組み 異年齢交流活動について																										
時期	2 月																											
対象	保護者・学校評議員・教職員																											
内容	基本的な生活習慣、人間関係、社会規範、学校行事、授業等																											

研究組織

(1) 研究組織の概要



研究開発の成果

(1) 実施による効果

1 生徒への効果

① 「未来の時間」の取組

9年間を見通した系統性をもったカリキュラムの編成

- 本校の課題により、つけたい力を明確にし3つの分野の中で学習内容を精選した。発達段階やステージ毎の内容、指導の重点を検討し、9年間を見通した系統性をもったカリキュラム編成を行った。それぞれの学年やステージで、ユニット化（単元）を通して学習がつながり、体験活動の充実や工夫した授業が見られるようになった。

特色ある各分野の取組と工夫

- 体験を活かして、学習を深めるため、PDCAサイクルやサンドイッチ構想などユニットの流れを工夫した。
- Bタイム（学びの基礎分野）では、3年間の研究の中で「学びの基礎」のとらえ方が広

がった。漢字学習や未来ノート（自主学習）を通して、家庭学習習慣の定着を図った。また、自己向上プロジェクト等により、生活改善や学びの基礎となる力を育むとともに、生きることの根づくりとして必要な力や内容を育成していく取組を行った。

○Fタイム（人間関係分野）では、人間関係づくりの力を育成するために、同学年や異学年での活動内容や場づくりを充実させた。それぞれの行事や体験を活かすために事前や事後に道徳的な意識付けや願い、人間関係のスキル学習を取り入れた。このことにより、仲間づくりや集団の中での自覚が生まれ、（リーダーシップを発揮したり、協力を深めたりする場面が見られた。

○V（地域学習分野）タイムでは、9年間の地域との関わり方をステージ毎に「地域の中で・地域について・地域のために」というように位置付け、学習内容を系統化した。魅力ある高島の「人・もの・情報」とのつながりを活かし、体験を通して学ぶことができた。その結果、地域に誇りをもち未来を考え夢を語る姿に近づきつつある。

②各ステージ交流活動

各ステージ毎で意識した、なめらかなつながりと適度な段差

○9年間を見通して学習内容や活動を系統化し、なめらかな接続とともに発達段階を考えた適度な段差を設定することも児童生徒の自覚と成長のために必要である。そのために小学4年時（ステージ1の最終学年）の1/2成人式や中学1年時（ステージ2の最終学年）の心宝祭（合宿）などの節目を設けた。その中で自分を見つめ直すことや未来に向けて生き方を考え、次のステージへの自覚や目的意識を高める機会にすることができた。

○様々な交流活動を各ステージで実施した。ステージ1では小学4年が、ステージ2では中学1年が、リーダー性を発揮する場となった。積極的に仲間づくりや目的意識をもった活動を通して、異学年での交流が充実し、役割の自覚と責任感を育むことにつながった。

③一部教科担任制

多くの教師が関わる効果

○小学5・6年生では、一部教科担任制を導入した。児童は教科によって教員が変わることを好感を持って受け入れ、学習指導や生活指導に関しても効果的であった。特に教科授業の専門性への児童の期待は大きく評価も高い。また、複数の教師が児童に関わることにより、様々な見方や考え方を学ぶという効果も期待できそうである。

2 教師への効果

教職員の意識の変容と課題意識の共有

①研究について

○研修会等を重ねることにより、小中一貫教育の必要性を理解し、互いの学校が抱える課題や生徒の実態に触れながらめざす子どもの姿を描くことができた。また、指導方法の違いや児童生徒の発達の違いについて理解が深まり、小中学校の教員間の相互理解と課題意識の共有が進んできた。

○本校の研究の方向と新学習指導要領やOECDが提案したDeSeCoのキー・コンピテンシーモデル（「21世紀に求められる新しい学力と人間の諸能力について」）等の考え方が同じであることが分かってきた。

②教師の交流

○学年毎に「未来の時間」の研究授業を実施し、子どもの発達や課題・連携の仕方・指導観等について意見交流することにより、子どもたちを9年間を通して育成していくという意識が高まった。

○小学校と中学校の教員の兼務が認められ、より積極的な小中の交流が進むこととなった。

小（中）学校の教師が中（小）学校の授業を担当することにより、生徒（児童）理解が深まり指導方法の改善や学習内容の系統性を図ることができた。

○特に中学校で起こる様々な問題についても、子どもが育った環境・指導の過程に目を向け、小中で「今どうすべきか」「今後どうするか」を考える流れが定着してきた。

3 保護者・地域への効果

①つながり

○地域や保護者の方の参加や協力を受け、子どもたちが学習の成果を各種行事やステージ、学年、学級の発表会等で行う機会をより多く持つことができた。

○地域に出かけ、高島の自然・文化や歴史を教えていただいた。反対に、生徒が地域の方を案内する体験をしたり、要望があった昔の高島音頭の復活に取り組んだりした。地域の方々と共に地域の魅力を学ぶことができた。

②広報

○ホームページや学校便り・研究便り「未来」などで、学校の様子や学習内容・子どもの姿を紹介しながら、小中一貫教育の取組について情報発信をすることができた。

○小中合同のPTAの会議や保護者会等でも、小中一貫教育の必要性や意義などについて協議している。

(2) 実施上の問題点と今後の課題

①「未来の時間」の実践と検証の継続

「未来の時間」では、研究主題に迫るため、義務教育9年間を見通した教育課程の開発と学習指導の実践を行った。今後、「子どもにつけたい力」を着実に伸ばしていくために、豊かな体験を活かした授業やユニット構成の改善を継続して、小中の子どもたちを見つめながら検証を続けていくことが必要である。さらに、新学習指導要領の趣旨を活かすことや各教科の授業改善を進め、「未来の時間」との「つながり」を明確にすることにより、「習得・活用・探究」をめざす学習活動を実践していきたい。

②小中教員の連携の推進

これまでに、研究を通して定期的に小中学校の教師が話し合う機会をもち研究を進めてきた。今後は研究の成果をもとに、小中それぞれのよさを認め合い、課題を共有し合うなど相互理解を深めたい。小中の枠にとらわれず、義務教育9年間の児童生徒の教育を担うという意識を高め、継続して「自己実現を図りよりよく生きようとする力の育成」をめざしていくことが必要である。具体的に小中の交流を推進していくために、組織を見直し様々な学校運営について協議を深めていきたい。

③児童生徒指導に関わる連携の推進

小中一貫教育の研究を通して、私たちは、9年間を通して子どもの成長を見つめることや変容を捉えるように心がけてきた。しかし、子どもたち一人一人の指導については小中の考え方や対応等が異なることも多いので、小中学校の職員間で共通理解を深め、実践につなげていく必要がある。

本校区においても、多様な課題を抱える子どもが増え、特別支援を要するケースが増加する傾向にある。人間関係が固定化しやすい傾向があるため、保護者や関係機関と連携しながら早い段階での適切な対応を行うと共に、小中9年間の連携を更に密にし小中一貫の生徒指導体制を創り上げていくことが急務である。

未来（ゆめ）を育む高島小中一貫教育全体構想

研究開発課題

自己実現を図り、よりよく生きようとする力を育成するため「未来の時間」を設置し、地域や児童生徒の実態を踏まえ、体験的な学習を核にした義務教育9年間の教育課程についての研究開発

子どもの実態

- ・素朴で明るく、真面目に物事に取り組む。
- ・仲良く協力的であるが、自己中心的な言動が時々みられる
- ・受け身的で自ら進んで取り組む姿勢が弱い。
- ・基本的な生活習慣が身につかず、学習が定着しない子が多い。

めざす子ども像

- 未来に夢と希望をもち、自己実現に向けた努力ができる子
- 自ら学び、学力を高めようと励む子ども
 - 豊かな人間性や社会性を身につけた子ども
 - よりよく生きるための耐力（身体、心）をもつ子ども

地域、保護者の実態

- ・古来、城下町として栄えた地域と農林業が中心だった地域である。近年ベッドタウン化し、核家族及び共働きの家庭が増えてきた。
- ・学校には、いろいろな教育活動にボランティア等で参加し、協力的である。

研究主題

「自己実現を図り、よりよく生きようとする力の育成」
～小中の連続性を高め、体験的な学習を核にした教育課程の開発～

未来につながる

- ・自分と地域の未来に夢と希望を
- ・故郷に誇りと愛情を

人がつながる

- ・子どもと子どもを、子どもと大人を
- ・不登校やいじめの減少を

学習につながる

- ・小中一貫教育カリキュラムを
- ・小中合同行事を

地域につながる

- ・ふるさとを大切にする子どもを
- ・地域と一体となった学校を

プレステージ（保育園）

意欲、基本的な生活習慣、社会規範など、人の生涯にわたる人間形成の基盤の育成

- ・学年のつながりを工夫（ステージ制）

ステージ1（小1年～小4年）

学習・生活における基礎・基本の定着

- ・教育課程の工夫

ステージ2（小5年～中1年）

自主性やリーダー性の育成
中1ギャップの解消

- ・ステージ2での一部教科担任制

ステージ3（中2年～中3年）

自分の将来、地域の未来を考える生き方学習

- ・保・小・中のネットワーク

未来（ゆめ）の時間

F(フレンドリー)タイム 【人間関係分野】

子どもが元気、学校が活性化する

- 児童会・生徒会活動の見直しと改善
- 学級会・班活動の活性化
- ソーシャルスキル学習
- リーダーの養成とメンバーシップの育成
- 縦割り活動（ステージ1・2）
- 小中交流活動（部活動・体育祭・文化祭）

V(ビレッジ)タイム 【地域学習分野】

故郷に誇りを持つ、人々の生き方に学ぶ

- 「ふるさと学習」系統カリキュラム
- 地域とのふれあい
- 伝統行事の学習と参加体験
- 職場体験（地域の産業・経済に学ぶ）
- 地域でのボランティア活動
- 地域学習発表会

B(ベーシック)タイム 【学びの基礎分野】 人間としての基礎・基本の定着をはかる

- 自己向上プロジェクト
- 漢字検定等に向けての自主学習の学び
- 学校生活、家庭生活の見直し

高島小学校 高島中学校 教育課程表(平成21年度)

別紙 1

	各教科の授業時数									道徳	特別活動	総合的 習的な時間	未来の 時間	外国語 活動	総 授業 時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画 工作	家庭 育	体						
小学1年	272		136		0 (-102)	68	68		102	29 (-5)	29 (-5)		112 (+112)		816
小学2年	280		175		0 (-105)	70	70		105	30 (-5)	30 (-5)		115 (+115)		875
小学3年	235	70	175	90		60	60		90	25 (-10)	25 (-10)	0 (-95)	120 (+120)		945
小学4年	235	85	175	105		60	60		90	25 (-10)	25 (-10)	0 (-100)	120 (+120)		980
小学5年	180	90	175	105		50	50	60	90	25 (-10)	25 (-10)	0 (-110)	105 (+105)	25 (+25)	980
小学6年	175	100	175	105		50	50	55	90	25 (-10)	25 (-10)	0 (-110)	105 (+105)	25 (+25)	980
計	1377	345	1011	405 (-207)	0	358	358	115	567	159 (-50)	159 (-50)	0 (-415)	677 (+677)	50 (+50)	5576
	各教科の授業時数									道徳	特別活動	選 択 教 科 等	総合的 習的な時間	未来の 時間	総 授業 時数
	国語	社会	数 学	理 科	音 楽	美 術	保 健 体 育	技 術 家 庭	外 国 語						
中学1年	140	105	140	105	45	45	90	70	105	0 (-35)	0 (-35)	0	0 (-65)	135 (+135)	980
中学2年	105	105	105	105	35	35	90	70	105	0 (-35)	0 (-35)	70	0 (-85)	155 (+155)	980
中学3年	105	85	105	105	35	35	90	35	105	0 (-35)	0 (-35)	105	0 (-105)	175 (+175)	980
計	350	295	350	315	115	115	270	175	315	0 (-105)	0 (-105)	175	0 (-255)	465 (+465)	2940

学校等の概要

別紙 2

1 学校名、校長名

高島市立 高島小学校 校長 中島 哲三
 高島市立 高島中学校 校長 伊藤 隆樹

2 所在地、電話番号、FAX番号

高島市立高島小学校
 〒520-1121 滋賀県高島市勝野1045番地
 TEL0740-36-1106 FAX0740-36-2336

高島市立高島中学校 滋賀県高島市勝野1070番地
 TEL0740-36-0079 FAX0740-36-8012

3 学年・課程・学科別幼児・児童・生徒数、学級数

高島市立高島小学校

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級	合計
児童数	60	56	60	63	63	63	5	370
学級数	2	2	2	2	2	2	3	15

高島市立高島中学校

1年		2年		3年		特別支援学級		合計	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
60	2	67	2	67	2	4	1	198	7

4 教職員数

高島市立高島小学校

校長	教頭	教諭	養護教諭	非常勤講師	実習助手	ALT	スクールカウンセラー	事務職員	司書	計
1	1	19	1	2				1		25

高島市立高島中学校

校長	教頭	教諭	養護教諭	非常勤講師	実習助手	ALT	スクールカウンセラー	事務職員	司書	計
1	1	13	1	2		1	1	1		21